

白浜町人口ビジョン

令和7年度改訂版

白浜町の好循環を、次のステップへ――

令和8年3月
白浜町

目 次

第1章	はじめに	1
1.	白浜町人口ビジョン改訂の目的	1
第2章	白浜町の人口の現状	2
1.	人口の推移	2
2.	人口ピラミッド	3
3.	出生・死亡、転入・転出の推移	5
4.	合計特殊出生率の推移	6
5.	総人口の推移に与えてきた自然増減及び社会増減の影響	7
6.	年齢階級別純移動数の時系列分析	8
7.	転入元・転出先の状況	9
8.	5歳階級別の転入・転出者数	10
第3章	将来展望の導出に係るアンケート調査	11
1.	アンケート調査の実施目的	11
2.	アンケート調査結果の概要・課題	11
第4章	めざすべき将来の方向	13
1.	白浜町の人口に関する特徴	13
2.	白浜町がめざすべき将来の方向	13
第5章	人口の将来展望	14
1.	将来展望人口の導出	14
2.	白浜町における人口の将来展望	16

第 1 章 はじめに

1. 白浜町人口ビジョン改訂の目的

我が国の人口は、平成 20（2008）年をピークに減少局面に入ったとされており、平成 26（2014）年には、国において人口減少に歯止めをかけるとともに東京圏への一極集中を是正し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的とした地方創生の取り組みが進められてきました。

同年 12 月に策定された「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」は令和元（2019）年 12 月に改訂され、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」（以下「長期ビジョン」という。）となりました。そこでは、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）による「将来推計人口（平成 29 年推計）」が示されており、2060 年の総人口は 9,284 万人まで落ち込むと推計されていますが、仮に 2040 年に合計特殊出生率が人口置換水準と同程度の値である 2.07 まで回復するならば、2060 年に総人口が 1 億人程度確保され、その後 2100 年前後には人口が定常状態になることが見込まれるとされています。

また、和歌山県では、2060 年における人口目標を 70 万人とする「和歌山県長期人口ビジョン」と、その目標を達成するための「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、平成 27（2015）年 6 月に策定（令和 2（2020）年 3 月及び令和 7（2025）年 3 月に改定）され、人口減少の抑制と人口減少時代に適応した地域づくりが進められています。

この間、本町においても、国・県の取り組みをふまえつつ、人口に関しての今後めざすべき方向性と将来展望を示すため、平成 27（2015）年度に「白浜町人口ビジョン」（以下「旧人口ビジョン」という。）とともに、そこで掲げた人口目標の達成と地域活力の向上を目的とする「白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第 1 次戦略」という。）を策定しました。また、令和 3（2021）年 3 月には「第 2 次白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第 2 次戦略」という。）を策定し、旧人口ビジョンにおいて掲げた人口目標の達成に向けて取り組んできました。

「白浜町人口ビジョン（令和 7 年度改訂版）」（以下「本人口ビジョン」という。）は、本町の人口の現状及び将来の見通しを示すことを目的に策定するものです。また、本人口ビジョンは、同時に策定する「第 3 次白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基礎資料として位置づけられるものです。

第2章

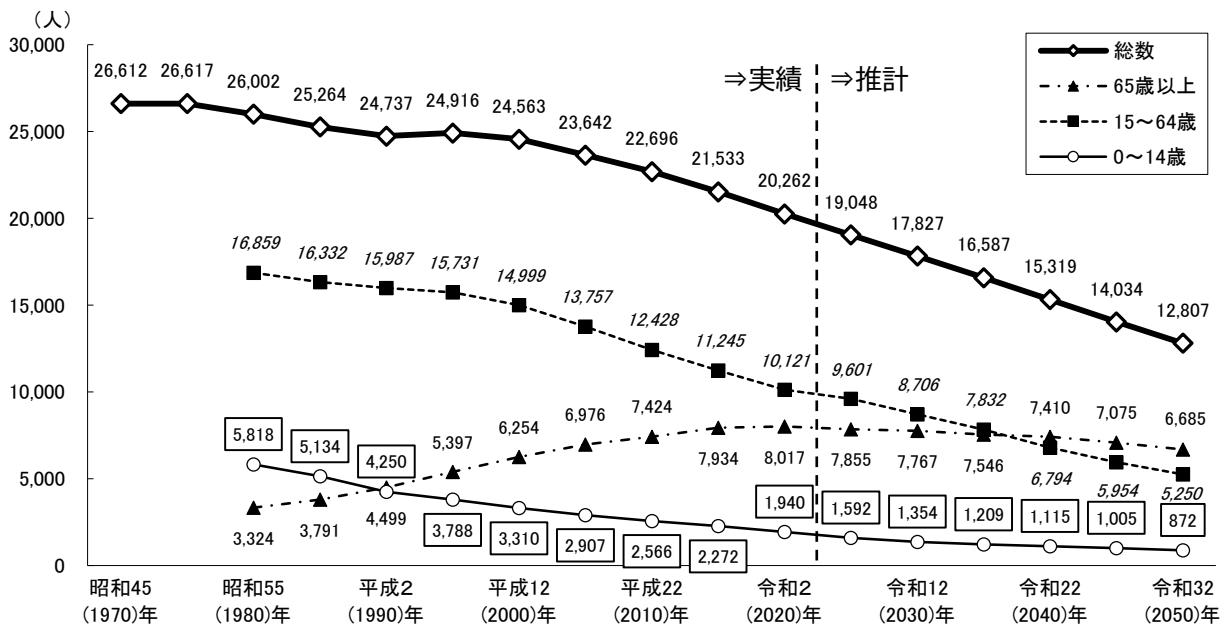
白浜町の人口の現状

1. 人口の推移

本町の総人口は、1975年の26,617人をピークに減少傾向となっており、2020年は20,262人となっています。また、令和5（2023）年に発表された社人研による「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」では、2050年には12,807人になるものと推計されています。

年少人口、生産年齢人口が減少傾向にあるのに対して老年人口は増加しており、少子高齢化が進行しています。

■総人口及び年齢3区分別人口の推移・推計



資料：（実績）国勢調査、

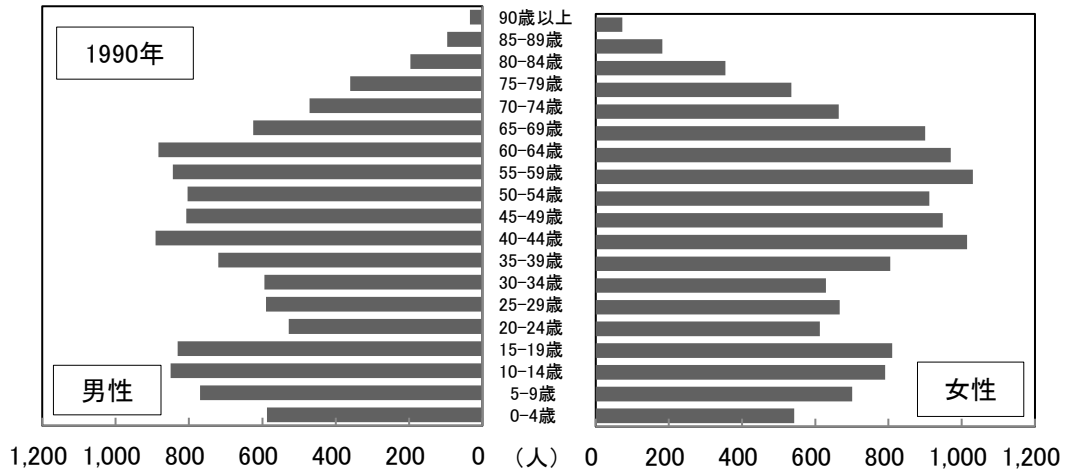
（推計）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）年推計」

※平成18（2006）年以前のデータについては、旧白浜町、旧日置川町の数値を合算

2. 人口ピラミッド

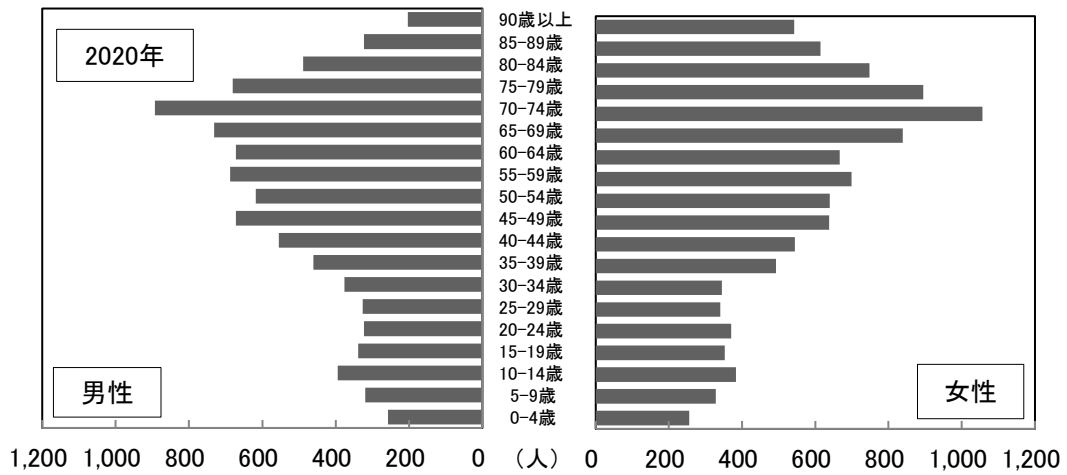
2020年と1990年の人口ピラミッドを比較すると、老年人口が増加し、年少人口が大幅に減少していることから、少子高齢化が進行しているといえます。

■人口ピラミッド（1990年）



資料：国勢調査

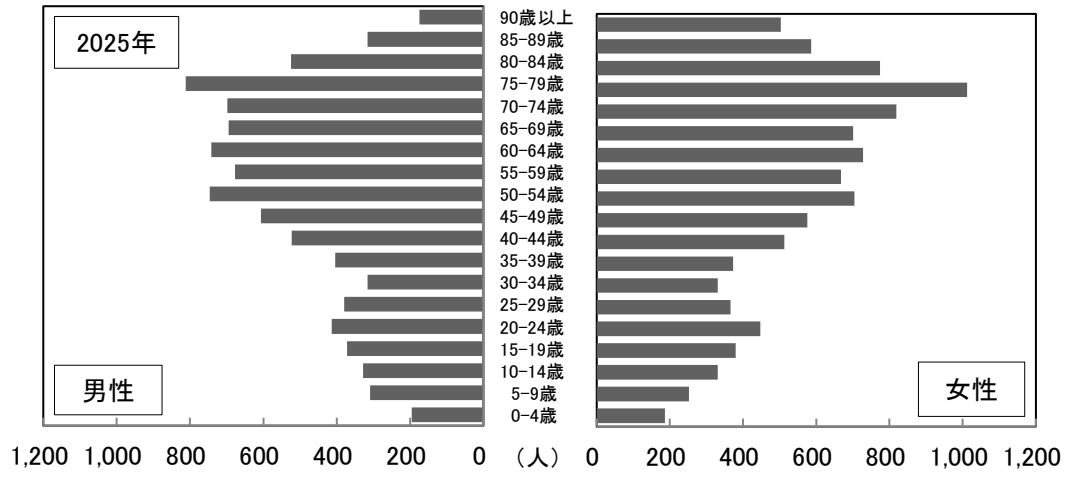
■人口ピラミッド（2020年）



資料：国勢調査

また、2025年の人口ピラミッドについてみると、人口のピークが75-79歳にあることがうかがえます。

■【参考】人口ピラミッド（2025年）



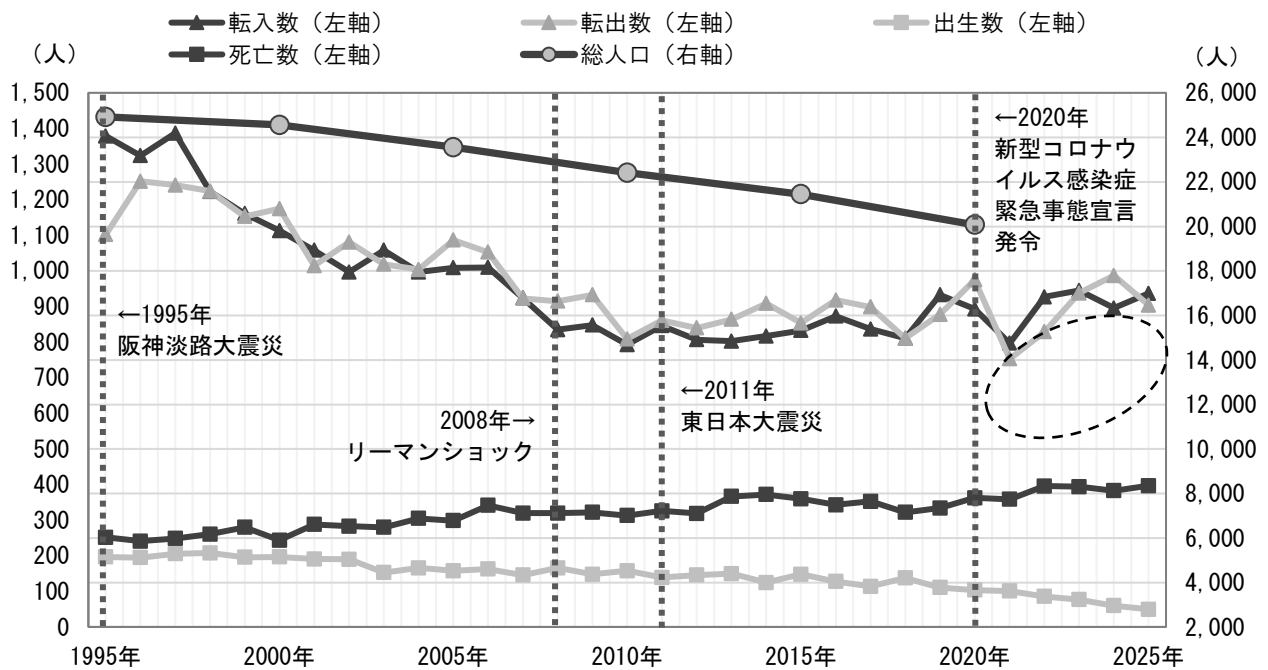
資料：住民基本台帳（白浜町）

3. 出生・死亡、転入・転出の推移

出生数・死亡数については、1995 年以降のすべての年において死亡数が出生数を上回っており、その差は年々広がってきています。

また、転入数・転出数については、2010 年以降概ね横ばいで推移していましたが、2021 年から 2025 年の 5 年間に於いては、転入数の合計が転出数の合計を上回る転入超過となっており、そこには外国人住民の転入が含まれています。

■出生数・死亡数／転入数・転出数の推移



資料：国勢調査、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査
 【2021 年～2025 年】住民基本台帳年報（白浜町）

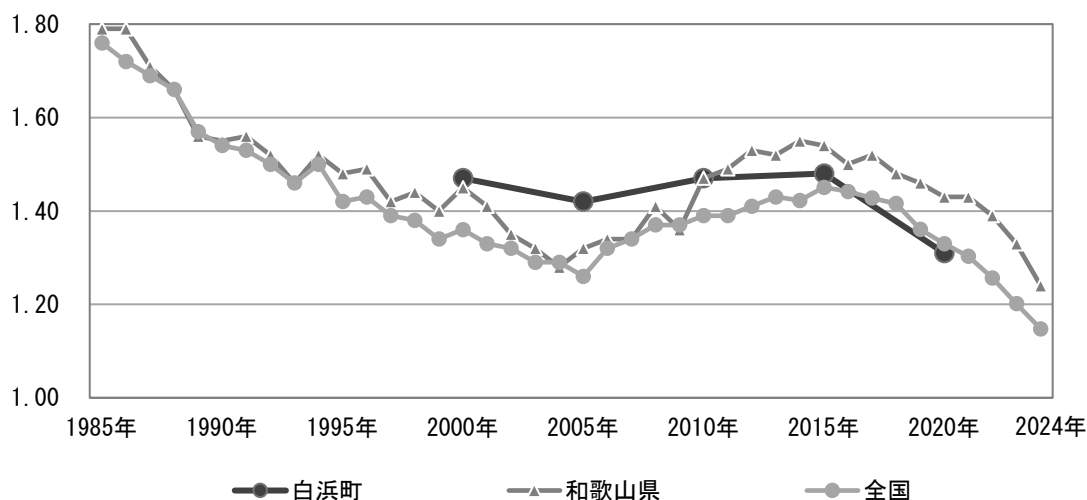
4. 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、白浜町、和歌山県、全国いずれも 2005 年～2015 年まで回復傾向にありましたが、その後低下しています。

白浜町、和歌山県、全国いずれも人口を長期的に一定に保てる水準である 2.07 を大きく下回っています。

白浜町の合計特殊出生率は、2015 年、2020 年は全国と同程度となっており、和歌山県を下回り推移しています。

■ 合計特殊出生率



	白浜町	和歌山県	全国
1985年	-	1.79	1.76
1986年	-	1.79	1.72
1987年	-	1.71	1.69
1988年	-	1.66	1.66
1989年	-	1.56	1.57
1990年	-	1.55	1.54
1991年	-	1.56	1.53
1992年	-	1.52	1.50
1993年	-	1.46	1.46
1994年	-	1.52	1.50
1995年	-	1.48	1.42
1996年	-	1.49	1.43
1997年	-	1.42	1.39
1998年	-	1.44	1.38
1999年	-	1.40	1.34
2000年	1.47	1.45	1.36
2001年	-	1.41	1.33
2002年	-	1.35	1.32
2003年	-	1.32	1.29
2004年	-	1.28	1.29
2005年	1.42	1.32	1.26
2006年	-	1.34	1.32
2007年	-	1.34	1.34
2008年	-	1.41	1.37
2009年	-	1.36	1.37
2010年	1.47	1.47	1.39
2011年	-	1.49	1.39
2012年	-	1.53	1.41
2013年	-	1.52	1.43
2014年	-	1.55	1.42
2015年	1.48	1.54	1.45
2016年	-	1.50	1.44
2017年	-	1.52	1.43
2018年	-	1.48	1.42
2019年	-	1.46	1.36
2020年	1.31	1.43	1.33
2021年	-	1.43	1.30
2022年	-	1.39	1.26
2023年	-	1.33	1.20
2024年	-	1.24	1.15

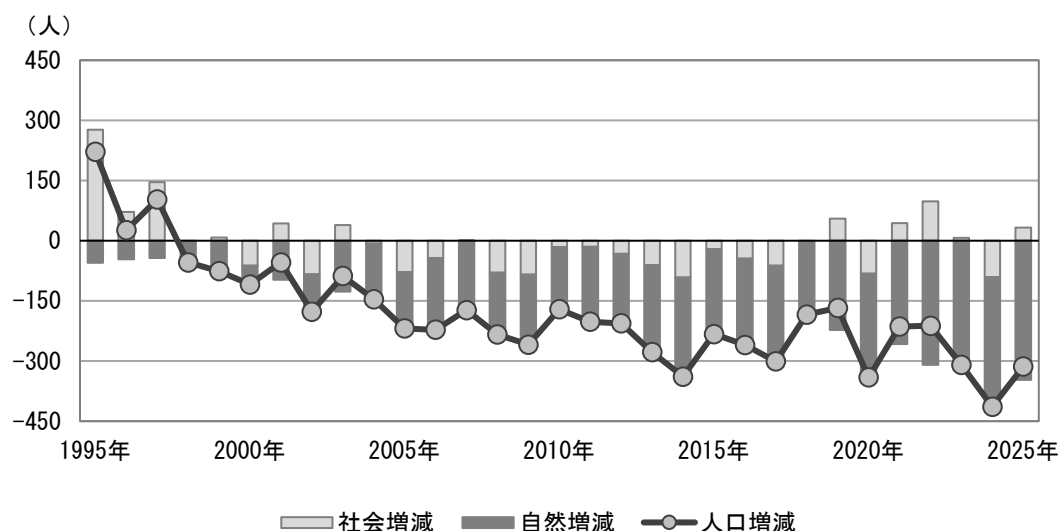
資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査、人口動態保健所・市町村別統計

5. 総人口の推移に与えてきた自然増減及び社会増減の影響

自然増減、社会増減は1997年までは社会増が自然減の数を上回っているため、総人口は増加傾向にありましたが、その後は一部の年を除いて社会要因、自然要因ともに減少が上回り、総人口は減少に転じています。

人口減の要因は、自然要因の影響が年々大きくなっています。

■自然増減・社会増減の推移



(単位：人)	社会増減	自然増減	人口増減
1995年	277	-55	222
1996年	72	-46	26
1997年	146	-43	103
1998年	-1	-53	-54
1999年	8	-84	-76
2000年	-62	-47	-109
2001年	43	-97	-54
2002年	-84	-93	-177
2003年	39	-127	-88
2004年	-7	-139	-146
2005年	-78	-141	-219
2006年	-43	-179	-222
2007年	1	-174	-173
2008年	-80	-154	-234
2009年	-85	-174	-259
2010年	-16	-155	-171

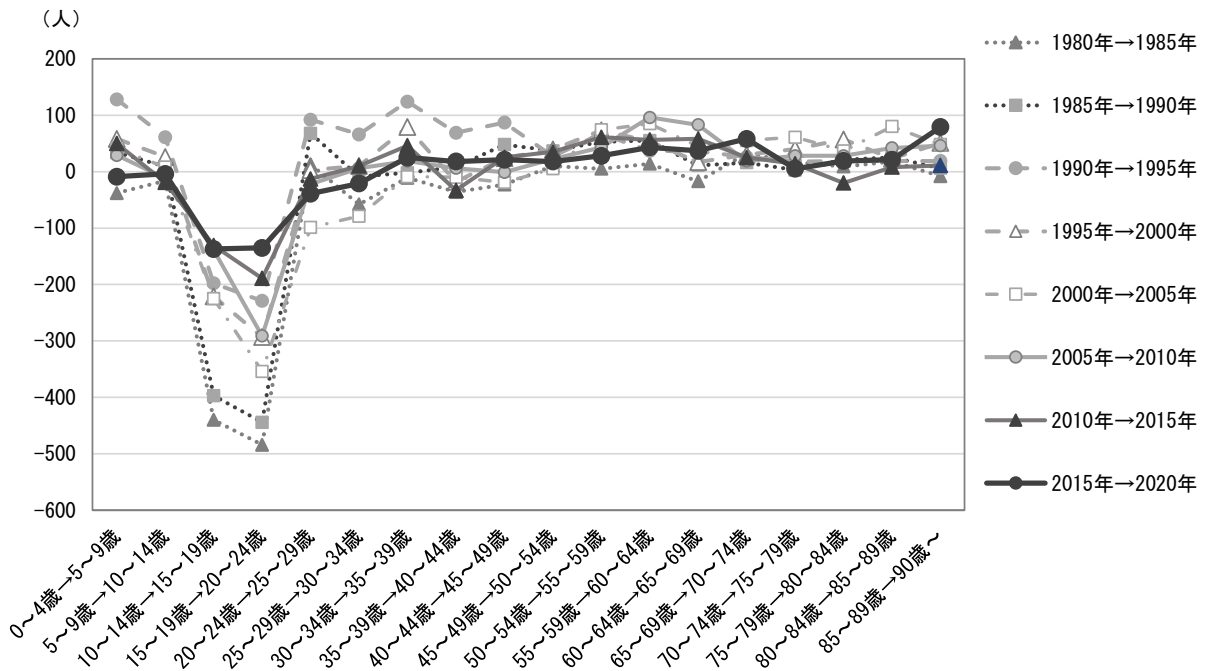
(単位：人)	社会増減	自然増減	人口増減
2011年	-15	-187	-202
2012年	-33	-173	-206
2013年	-61	-217	-278
2014年	-92	-247	-339
2015年	-21	-212	-233
2016年	-45	-215	-260
2017年	-62	-239	-301
2018年	0	-184	-184
2019年	55	-223	-168
2020年	-82	-259	-341
2021年	44	-258	-214
2022年	98	-310	-212
2023年	7	-317	-310
2024年	-91	-323	-414
2025年	33	-347	-314

資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査
【2021年～2025年】住民基本台帳年報（白浜町）

6. 年齢階級別純移動数の時系列分析

年齢階級別純移動数は、すべての調査年において概ね同傾向にあります。10歳代前半から10歳代後半にかけて及び10歳代後半から20歳代前半にかけて、いずれの調査年においても転出超過数が多くあり、その理由としては、高校・大学等への進学や就職を機に本町を離れたことが考えられます。この年齢層の転出超過数は、1980年から1985年が最も多く、以降減少傾向にあります。

■年齢階級別純移動数の時系列分析



(単位：人)	1980年 →1985年	1985年 →1990年	1990年 →1995年	1995年 →2000年	2000年 →2005年	2005年 →2010年	2010年 →2015年	2015年 →2020年
0～4歳→5～9歳	-38	34	128	58	41	29	50	-9
5～9歳→10～14歳	-16	9	61	26	8	-12	-19	-4
10～14歳→15～19歳	-440	-397	-198	-221	-225	-139	-131	-137
15～19歳→20～24歳	-484	-444	-229	-293	-354	-291	-189	-135
20～24歳→25～29歳	13	68	92	3	-99	-22	-13	-39
25～29歳→30～34歳	-58	-9	66	10	-79	6	10	-21
30～34歳→35～39歳	-11	-2	124	79	-9	19	46	25
35～39歳→40～44歳	-36	8	69	-18	-10	6	-33	18
40～44歳→45～49歳	-23	48	87	24	-19	-1	25	21
45～49歳→50～54歳	10	37	27	39	5	22	35	18
50～54歳→55～59歳	5	53	67	73	74	43	61	28
55～59歳→60～64歳	14	55	37	54	85	96	56	43
60～64歳→65～69歳	-17	11	36	17	45	83	58	37
65～69歳→70～74歳	32	16	26	30	55	19	25	58
70～74歳→75～79歳	17	3	18	40	61	28	14	5
75～79歳→80～84歳	9	21	19	57	37	28	-20	19
80～84歳→85～89歳	18	25	19	23	80	42	8	21
85～89歳→90歳～	-8	6	19	51	48	46	11	79

資料：国勢調査、「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

7. 転入元・転出先の状況

本町への転入者数は、2023 年が 794 人、2024 年が 738 人となっています。

2024 年における総転入者数の 40%程度が和歌山県内からであり、田辺市が 16.3%で最も多く、次いで和歌山市が 6.0%、上富田町が 5.7%の順となっています。

本町からの転出者数は、2023 年が 854 人、2024 年が 914 人となっています。

2024 年における総転出者数の 45%程度が和歌山県内への転出であり、田辺市が 20.4%で最も多く、次いで上富田町が 8.9%、和歌山市が 6.2%の順となっています。

■白浜町の主な転入元・転出先

《2023年 白浜町への転入》

転入元	総数	割合
総転入者数	794	100.0%
和歌山県内	289	36.4%
田辺市	133	16.8%
上富田町	54	6.8%
和歌山市	43	5.4%
県内その他	59	7.4%
県外	505	63.6%
大阪府	172	21.7%
県外その他	333	41.9%

《2023年 白浜町からの転出》

転出先	総数	割合
総転出者数	854	100.0%
和歌山県内	376	44.0%
田辺市	136	15.9%
上富田町	90	10.5%
和歌山市	72	8.4%
県内その他	78	9.1%
県外	478	56.0%
大阪府	141	16.5%
県外その他	337	39.5%

《2024年 白浜町への転入》

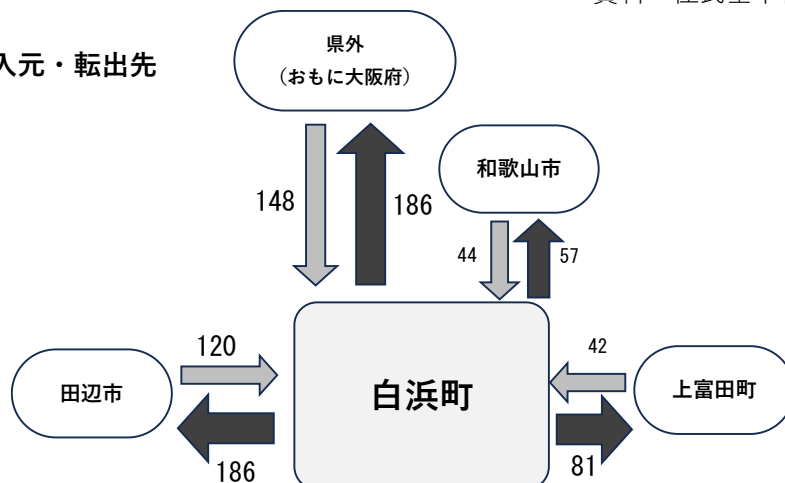
転入元	総数	割合
総転入者数	738	100.0%
和歌山県内	301	40.8%
田辺市	120	16.3%
和歌山市	44	6.0%
上富田町	42	5.7%
県内その他	95	12.9%
県外	437	59.2%
大阪府	148	20.1%
県外その他	289	39.2%

《2024年 白浜町からの転出》

転出先	総数	割合
総転出者数	914	100.0%
和歌山県内	417	45.6%
田辺市	186	20.4%
上富田町	81	8.9%
和歌山市	57	6.2%
県内その他	93	10.2%
県外	497	54.4%
大阪府	186	20.4%
県外その他	311	34.0%

資料：住民基本台帳人口移動報告

■白浜町の主な転入元・転出先 (2024年)



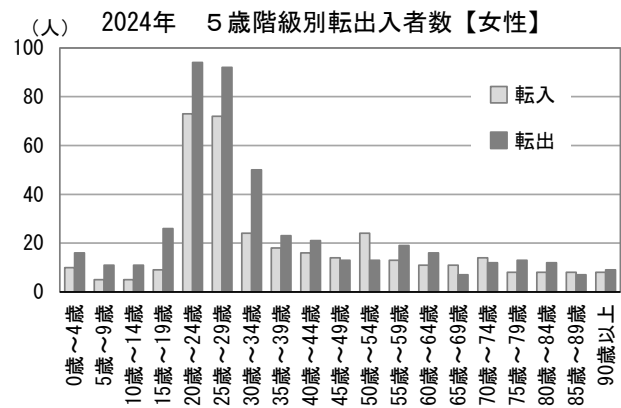
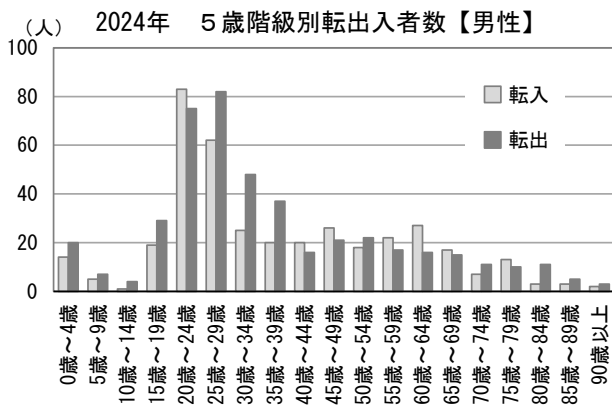
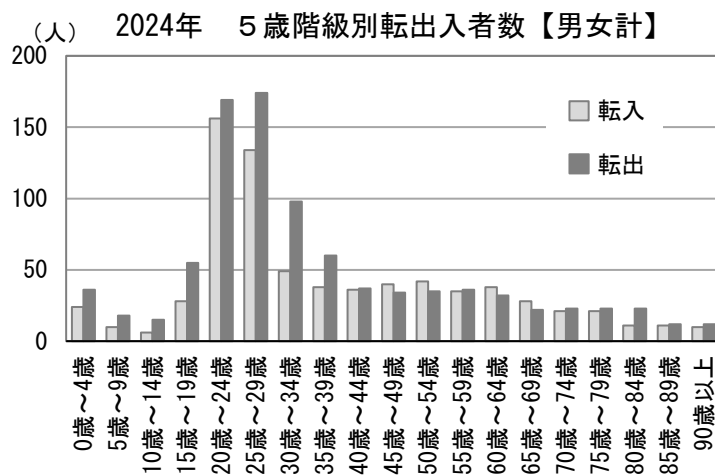
8. 5歳階級別の転入・転出者数

5歳階級別の転入・転出者数は、男女計では、25～29歳、30歳～34歳で転出超過となっており、40歳以上の年代は概ね転入者数と転出者数が同数となっています。

進学・就職期にあたる20～24歳は、男性では転入超過となっています。25～29歳、30歳～34歳は、男女ともに転出超過となっており、結婚等をきっかけとした転出者数が多くなっていると考えられます。

特に、女性は、男性と比べて15歳～19歳と20～24歳で転出者数と転入者数の差が大きく、それぞれ20人程度の転出超過となっています。

■ 5歳階級別の転入・転出者数



資料：住民基本台帳人口移動報告

第3章

将来展望の導出に係るアンケート調査

1. アンケート調査の実施目的

「第3次白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に係る「町民アンケート調査」及び「高校生アンケート調査」は、本人口ビジョン及び「第3次白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたって、本町が取り組むべき地方創生の方向やまちづくりについて、町民の考えを把握し、各種計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

■アンケート調査の概要

項目	町民アンケート調査	高校生アンケート調査
調査対象者	町内在住の19歳以上の町民 (無作為抽出)	町内在住の高校等に通学する学生 (無作為抽出)
調査期間	令和7年10月10日(金) ～10月24日(金)	令和7年10月10日(金) ～10月24日(金)
調査方法	郵送配布による本人記入方式 またはWEB回収	郵送配布による本人記入方式 またはWEB回収
配布数	1,000件	200件
有効回収数	433件	58件
有効回収率	43.3%	29.0%

2. アンケート調査結果の概要・課題

(1) 町民アンケート調査結果の概要・課題

- ◆白浜町への転入の理由としては、「職場の都合」「家族等との同居または近居」「結婚」が主な理由となっています。40歳未満では「職場の都合」が最も高くなっています。
- ◆住み続けるために必要なことは、「福祉施設や医療施設が充実していること」「犯罪や災害による被害が少なく安心して暮らせること」「遊びや食事・ショッピングに便利で、楽しく過ごせる場所があること」が主なポイントとなります。また、40歳未満では「遊びや食事・ショッピングに便利で、楽しく過ごせる場所があること」に次いで「給与や待遇の良い仕事があること」が他のポイントよりも高くなっています。
- ◆町への愛着や町の住みやすさについては半数以上が好意的な回答となっています。また町に住んでいて良かったことは「自然環境」「気候」「治安」が主なものとなっています。
- ◆町の誇れるものや魅力については、「豊かな自然・景観」「歴史と文化」「レジャー・観光施設」が高くなっており、「レジャー・観光施設」に対する回答割合は、60歳未満の年齢層で高い割合となっています。一方、本町における地方創生の取り組みの認知度は2割以下となっています。

- ◆施策ごとの満足度・重要度の相関分析をふまえると、「雇用の促進」「商工業等の振興」「農林水産業の振興」「結婚から妊娠・出産・子育ての一貫した支援の充実」が、満足度が低く重要度が高い施策項目として、優先的な充実が求められる施策項目として分類されます。

⇒本町への転入の理由としては「職場の都合」としている人が多くなっており、住み続けるにあたっては生活の利便性や安心・安全を求める声が多くなっています。その中でも、40歳未満では、生活環境や仕事の条件面に関する項目が高く、年齢層に応じた施策展開が求められます。

⇒一方で、町への愛着や住みやすさについての評価も高くなっており、自然環境や歴史文化、そしてレジャー・観光施設といった白浜町ならではの地域資源への評価・期待が高くなっています。

(2) 高校生アンケート調査結果の概要・課題

- ◆今後の町への居留意向としては、「進学や就職で町外に住むと思うが、その後どうするかはわからない」が最も高く、次いで「将来のことはまだ考えられない／わからない」「進学のタイミングで一度町外に住むと思うが、いずれは白浜町に戻ってきたい」となっており、将来的な生活イメージをこれから具体化していく段階にあることがうかがえます。
- ◆卒業後に町に住む・戻ってくるための条件としては、「公共交通の便が良い」が最も高く、次いで「給与や待遇の良い仕事があること」「自分の希望する職種の職場があること」となっています。一方で、半数近くが町内にどんな仕事があるかよく知らないと回答しています。
- ◆町への愛着や住みやすさについては、それぞれ高い割合で好意的な回答となっています。
- ◆誰もが住み続けたいまちにするために重点的に取り組むべき取り組みとして、「買い物などの日常生活が便利なまち」が最も高く、次いで「地震、洪水などの防災に対する安心感があるまち」「子育て支援が充実した子育てしやすいまち」となっています。

⇒町への居留意向や町への愛着、住みやすさに対して好意的な回答をする高校生は多い一方で、進学や就職後のイメージをこれから具体化していく実情がうかがえます。将来的に、就職や結婚・出産といったライフステージの変化が訪れた際に戻ってきたくなる「ふるさと」としてのポテンシャルを向上させるため、本町で働くことのイメージづくりや、ふるさとへの帰属意識の醸成等が求められます。

⇒また、町の魅力をより身近に感じてもらえるよう、町内に向けた効果的な情報発信を検討することも考えられます。

第4章 めざすべき将来の方向

1. 白浜町の人口に関する特徴

(1) 若者層の近隣市町や大都市圏への流出

- ・男女ともに、多くの10代、20代の若者層が進学や就職、結婚などを機に大阪を中心とした大都市圏や近隣市町（田辺市・上富田町）へ転出している実情がうかがえます。
- ・町内に在住する高校生を対象としたアンケート結果では、進学や就職後の生活イメージが描けている人が少数となっており、多くはこれから進路や暮らし方を検討する段階にあるといえます。

(2) 自然要因による人口減少の進行

- ・近年、自然減による人口減少が進行しており、出生数との差が年々広がっています。
- ・町内の合計特殊出生率は、2005年から2015年にかけては回復傾向にありましたが、以降は低下する推移となっています。

(3) 白浜町のイメージへの高い評価・期待

- ・町への愛着や住みやすさへの評価が高いこと、そして自然環境や歴史文化、レジャー・観光施設といった白浜町ならではの地域資源への評価・期待が高くなっていることが、アンケート調査の結果から明らかになりました。

2. 白浜町がめざすべき将来の方向

- 中高年層については一定の転入がある一方で、若者層は進学や就職を契機に近隣市町や大都市圏へ流出し、自然減の進行とあわせて人口減少が続いています。アンケート調査からは、町への愛着や自然環境・観光資源への評価が高い一方、仕事の選択肢や交通・買い物などの日常生活の利便性、地元で働くことのイメージが不足していることが課題として明らかになりました。
- そのため、白浜町ならではの自然・観光資源やブランド力を活かしつつ、安定した雇用や働きがいのある仕事、交通や買い物・医療などの生活基盤、結婚・出産・子育てといった切れ目ない支援に総合的に取り組むことにより、若者層が町にとどまり、将来的なライフステージの変化の中でも「戻ってきたい」と思えるまちづくりを進めていくことが重要です。

第5章 人口の将来展望

1. 将来展望人口の導出

(1) 推計パターン

「地方版総合戦略の策定等に向けた人口動向分析・将来人口推計の手引き（令和6年6月版）※」では、社人研推計の最終的な推計結果と整合的な社人研推計準拠推計と、出生に関する仮定値である将来の合計特殊出生率等及び移動に関する仮定値である将来の純移動率等とを独自に設定する推計（独自推計）を行うことが可能であるとされています。

ここでは、社人研推計準拠推計である「パターン1」とともに、「白浜町がめざすべき将来の方向」をふまえた本町の独自推計を「パターン2」から「パターン4」の3種類を示すことにより、本町の将来展望を明らかにします。

■各種推計パターン及びその概要

パターン	概要
パターン1	主に2015～2020年の人口の動向を勘案し、将来の人口を推計（社人研推計準拠推計）
パターン2	合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした場合（転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合）の推計
パターン3	合計特殊出生率が人口置換水準（2.1）まで上昇し、社人研推計をベースに若者層（10～39歳）の移動について、現在よりも進学・住み替え等による転出を減らし、町へ戻ってくる・入ってくる人が増えると想定し、純移動率を設定した場合の推計（町独自推計＝旧人口ビジョンと条件を同一としたもの）
パターン4	合計特殊出生率の現状（1.35）を維持させるとともに、社人研推計をベースに若者層（10～39歳）の移動について、現在よりも進学・住み替え等による転出を減らし、町へ戻ってくる・入ってくる人が増えると想定し、加えて直近の社会増の傾向が一定以上維持されると見込んだ場合の推計

※内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局による。

(2) 出生・死亡、移動についての考え方

各パターンにおける出生・死亡、移動についての考え方は、以下のとおりです。

■各種推計パターンの仮定

	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
出生	<p>・原則として、2020年の全国の子ども女性比(15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比)と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が2025年以降2050年まで一定として市町村ごとに仮定。</p>	<p>合計特殊出生率 →2030年に人口置換水準の2.1まで上昇すると仮定。</p>		<p>合計特殊出生率 →現状の1.35を維持すると仮定。</p>
死亡	<p>・原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2015年→2020年の生残率から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では上述に加えて都道府県と市町村の2010年→2015年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。</p>			
移動	<p>・原則として、2015～2020年の国勢調査(実績)に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を2045～2050年まで一定と仮定。</p>	<p>・純移動率がゼロ(均衡)で推移すると仮定。</p>	<p>・5年毎の純移動率を、社人研推計をベースとし、若者層※については現在よりも進学・住み替え等による転出を減らし、町へ戻ってくる・入ってくる人(転入)が増えると仮定。</p>	<p>・パターン3の条件に加えて、直近の社会増(2021年→2025年)が一定以上維持されると仮定。</p>

※…10～14歳→15～19歳、15～19歳→20～24歳、20～24歳→25～29歳、25～29歳→30～34歳、30～34歳→35～39歳と設定。

2. 白浜町における人口の将来展望

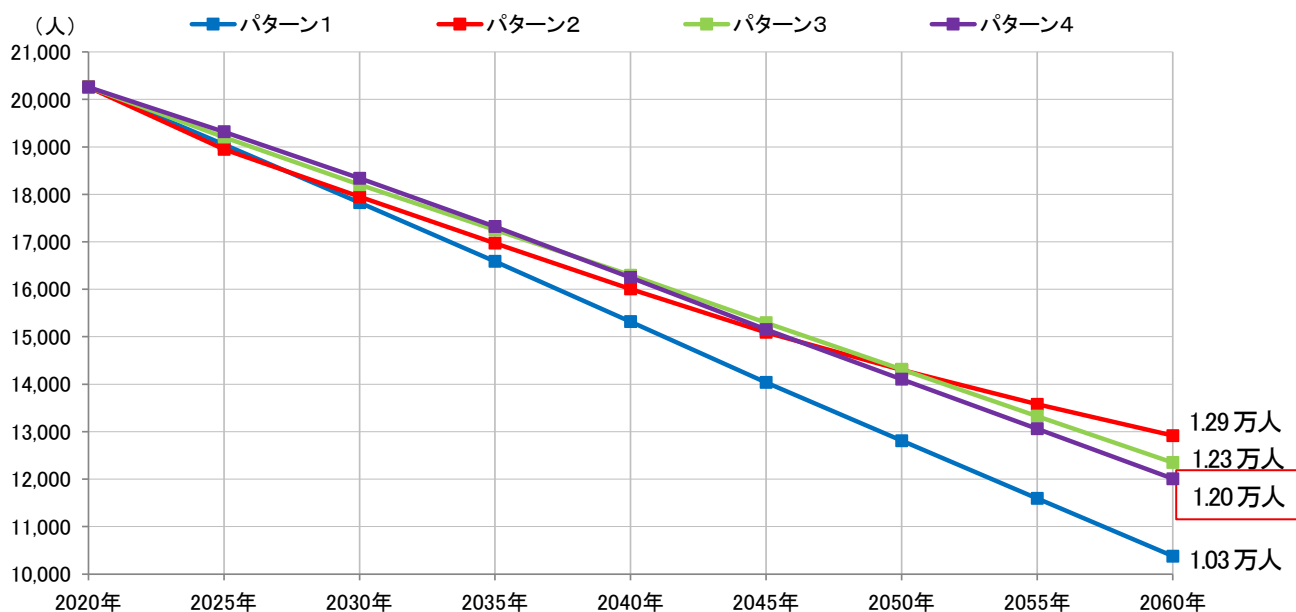
社人研準拠推計（パターン1）によると、今後、人口減少及び少子高齢化の問題に対して何の対策も講じなければ、白浜町の総人口は2060年で2020年の約半分にあたる10,377人になると予測されています。

これに対して、合計特殊出生率を人口置換水準にまで向上させるとともに、移動均衡の状態を仮定すると、2060年にはパターン1の約1.24倍にあたる12,917人になることが予測されます。このパターン2は、自然動態と社会動態における一定の上限をシミュレーションしたものであるといえます。

また、旧人口ビジョンの条件設定を引き継いだものとして、パターン3が挙げられます。これは、合計特殊出生率を人口置換水準にまで向上させるとともに、社会減の抑制策を講じ、若者層の転出割合を緩和させることを想定した推計で、2060年にはパターン1の約1.19倍にあたる12,349人になることが予測されます。

上記の予測と本町の実情をふまえた推計がパターン4になります。これは、合計特殊出生率の条件設定を、現状の水準を維持させるとともに、社会動態の実情と施策効果を考慮した推計となっており、パターン1の約1.16倍にあたる12,009人になることが予測されるものです。

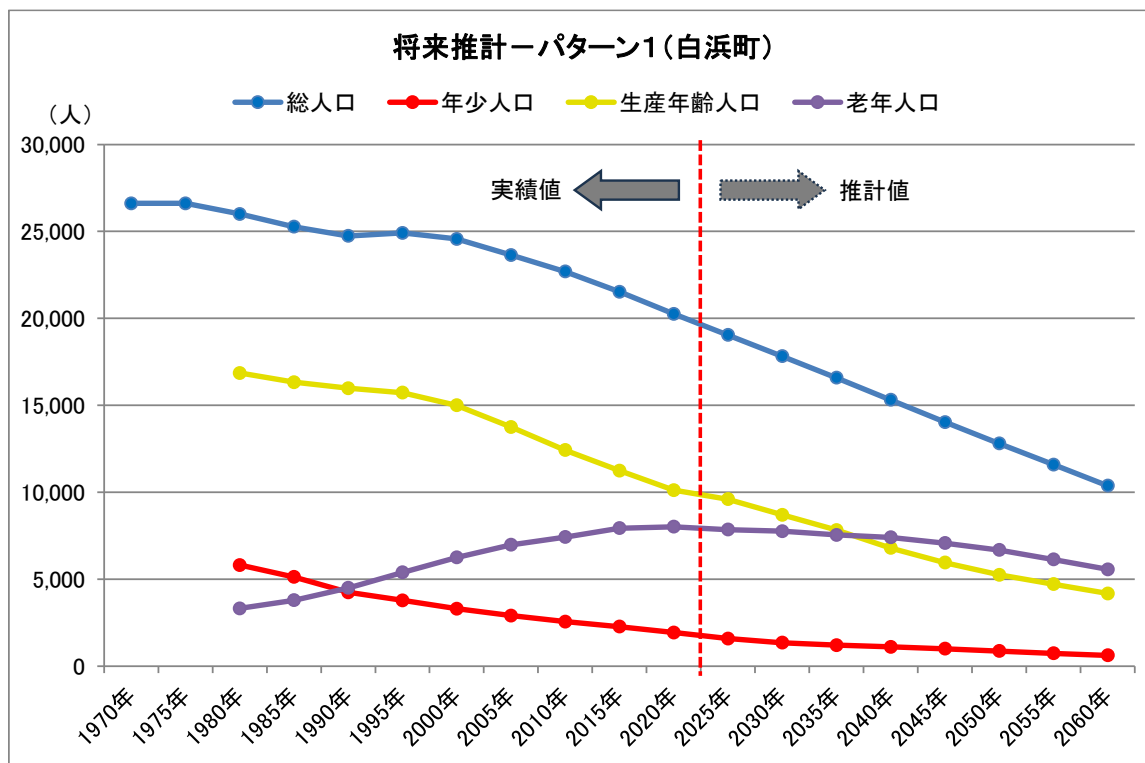
■総人口の将来推計



(単位：人)	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
2020年	20,262	20,262	20,262	20,262
2025年	19,049	18,949	19,205	19,319
2030年	17,825	17,950	18,204	18,338
2035年	16,587	16,972	17,249	17,321
2040年	15,316	16,006	16,298	16,247
2045年	14,036	15,093	15,294	15,152
2050年	12,809	14,303	14,313	14,104
2055年	11,592	13,577	13,324	13,059
2060年	10,377	12,917	12,349	12,009

●本町では、本町の実情に即した人口減少対策を講じることにより、**2060年に12,000人程度**の人口水準を維持することをめざします。

■参考：人口の将来推計—パターン1（社人研推計準拠）



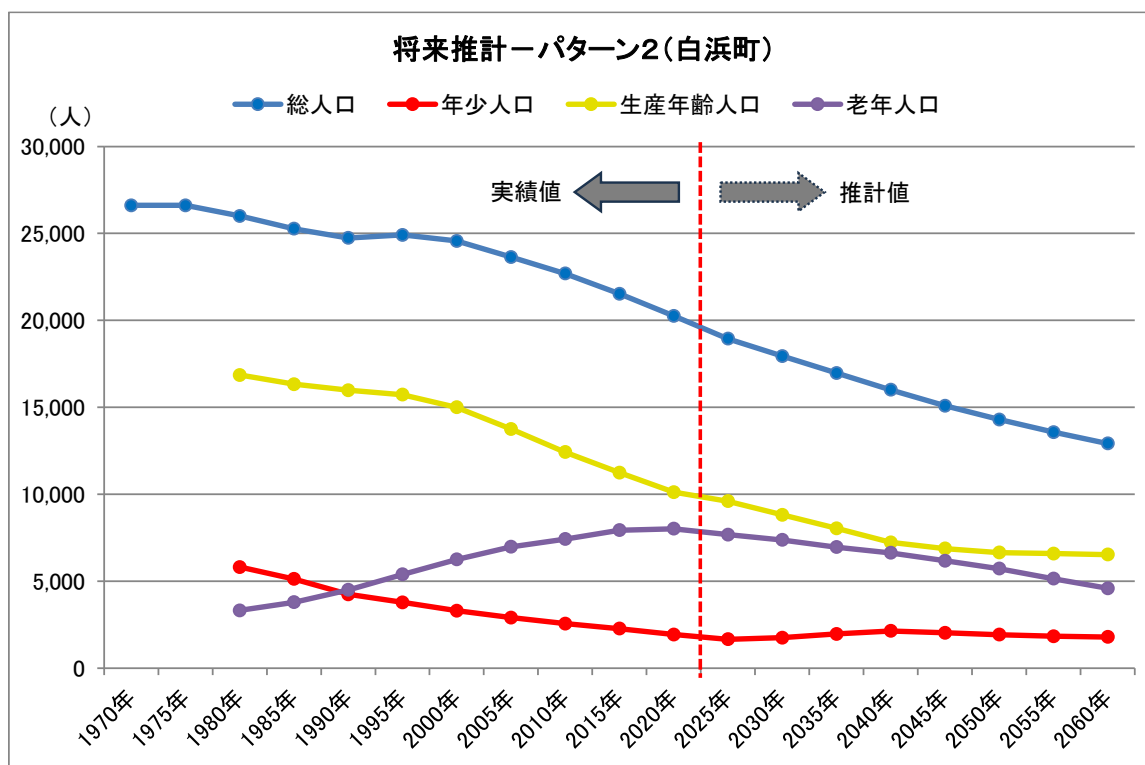
※2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,002	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,264	5,134	20.3%	16,332	64.6%	3,791	15.0%
1990年	24,737	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,642	2,907	12.3%	13,757	58.2%	6,976	29.5%
2010年	22,696	2,566	11.3%	12,428	54.8%	7,424	32.7%
2015年	21,533	2,272	10.6%	11,245	52.2%	7,934	36.8%
2020年	20,262	1,940	9.6%	10,121	50.0%	8,017	39.6%
2025年	19,049	1,593	8.4%	9,600	50.4%	7,856	41.2%
2030年	17,825	1,353	7.6%	8,706	48.8%	7,765	43.6%
2035年	16,587	1,209	7.3%	7,830	47.2%	7,548	45.5%
2040年	15,316	1,114	7.3%	6,793	44.4%	7,409	48.4%
2045年	14,036	1,005	7.2%	5,956	42.4%	7,075	50.4%
2050年	12,809	873	6.8%	5,251	41.0%	6,685	52.2%
2055年	11,592	739	6.4%	4,714	40.7%	6,139	53.0%
2060年	10,377	625	6.0%	4,180	40.3%	5,572	53.7%

推計値

- ・総人口は、2060年において10,377人になると予測され、2020年から2060年までの減少率は48.8%となっています。
- ・2020年から2060年までの減少率を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が67.8%、生産年齢人口（15～64歳）が58.7%、老年人口（65歳以上）が30.5%となることが予測されます。

■参考：人口の将来推計—パターン2（人口置換水準・移動均衡）



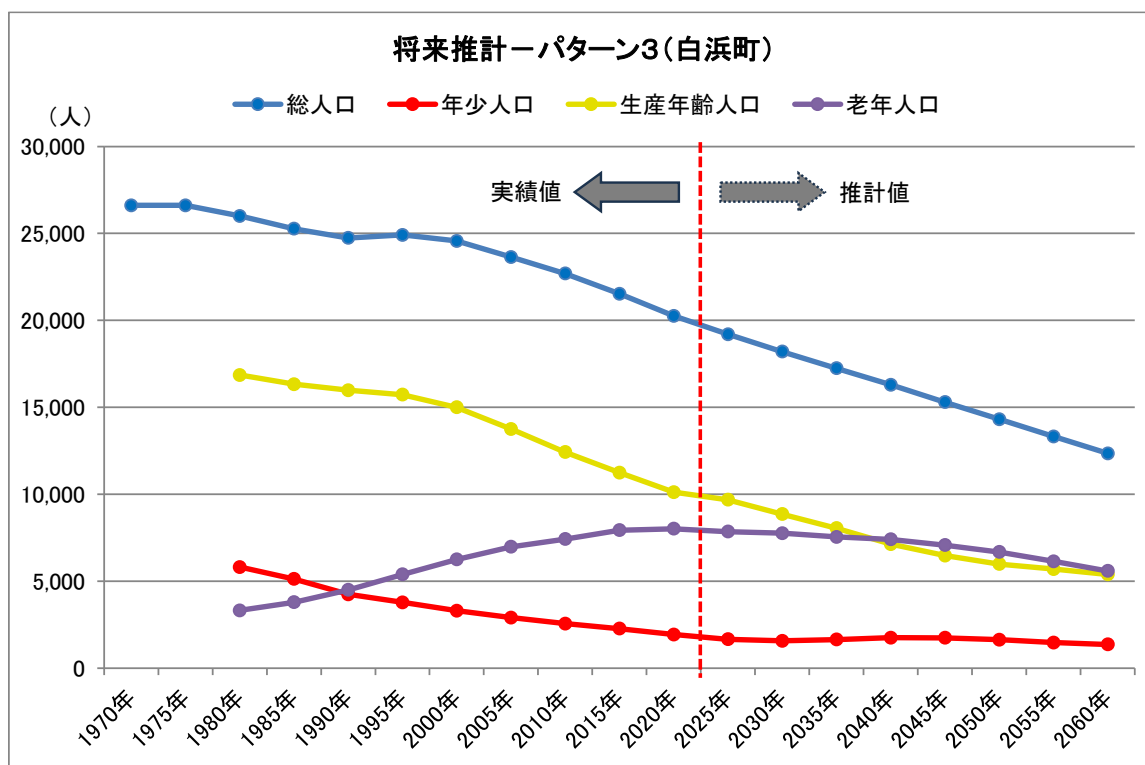
※2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,002	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,264	5,134	20.3%	16,332	64.6%	3,791	15.0%
1990年	24,737	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,642	2,907	12.3%	13,757	58.2%	6,976	29.5%
2010年	22,696	2,566	11.3%	12,428	54.8%	7,424	32.7%
2015年	21,533	2,272	10.6%	11,245	52.2%	7,934	36.8%
2020年	20,262	1,940	9.6%	10,121	50.0%	8,017	39.6%
2025年	18,949	1,667	8.8%	9,603	50.7%	7,679	40.5%
2030年	17,950	1,756	9.8%	8,815	49.1%	7,379	41.1%
2035年	16,972	1,965	11.6%	8,044	47.4%	6,963	41.0%
2040年	16,006	2,143	13.4%	7,234	45.2%	6,628	41.4%
2045年	15,093	2,035	13.5%	6,876	45.6%	6,182	41.0%
2050年	14,303	1,930	13.5%	6,646	46.5%	5,727	40.0%
2055年	13,577	1,835	13.5%	6,593	48.6%	5,148	37.9%
2060年	12,917	1,794	13.9%	6,534	50.6%	4,589	35.5%

推計値

- ・総人口は、2060年において12,917人になると予測され、2020年から2060年までの減少率は36.2%となっています。
- ・2020年から2060年までの減少率を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が7.5%、生産年齢人口（15～64歳）が35.4%、老年人口（65歳以上）が42.8%となることが予測されます。

■参考：人口の将来推計—パターン3（旧人口ビジョンの条件を摘要）



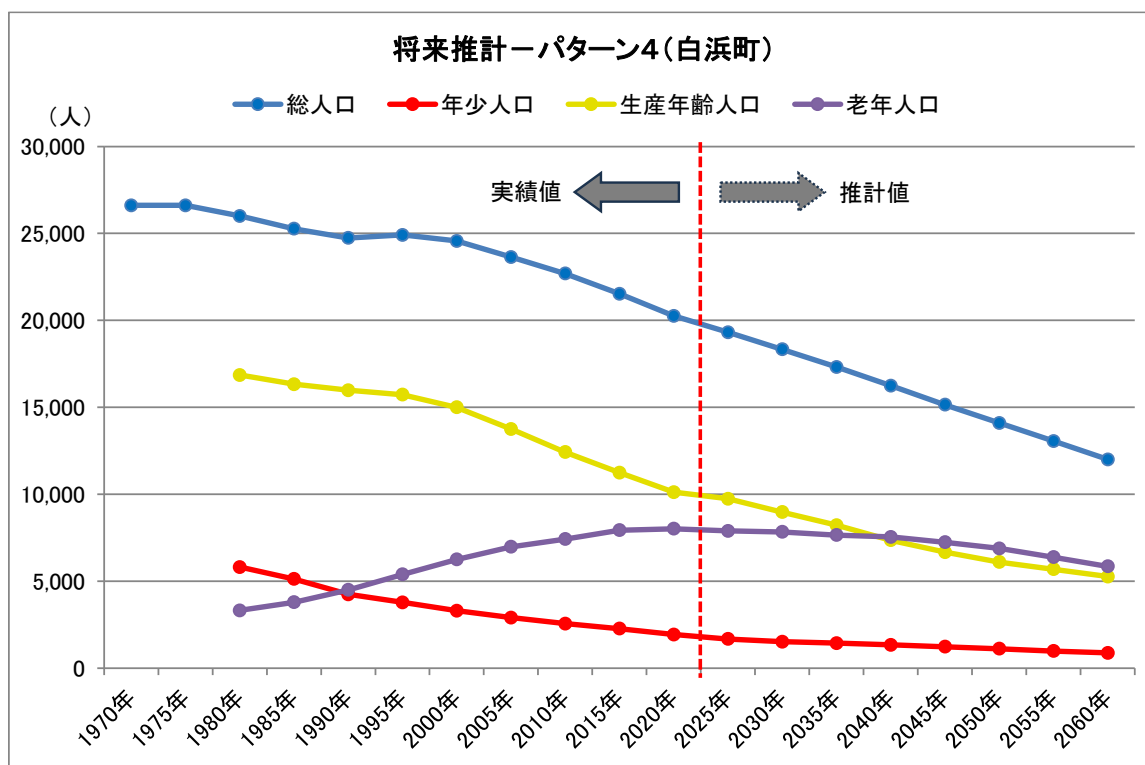
※2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,002	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,264	5,134	20.3%	16,332	64.6%	3,791	15.0%
1990年	24,737	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,642	2,907	12.3%	13,757	58.2%	6,976	29.5%
2010年	22,696	2,566	11.3%	12,428	54.8%	7,424	32.7%
2015年	21,533	2,272	10.6%	11,245	52.2%	7,934	36.8%
2020年	20,262	1,940	9.6%	10,121	50.0%	8,017	39.6%
2025年	19,205	1,667	8.7%	9,683	50.4%	7,856	40.9%
2030年	18,204	1,577	8.7%	8,863	48.7%	7,765	42.7%
2035年	17,249	1,650	9.6%	8,051	46.7%	7,548	43.8%
2040年	16,298	1,753	10.8%	7,136	43.8%	7,409	45.5%
2045年	15,294	1,748	11.4%	6,472	42.3%	7,075	46.3%
2050年	14,313	1,641	11.5%	5,986	41.8%	6,685	46.7%
2055年	13,324	1,475	11.1%	5,702	42.8%	6,147	46.1%
2060年	12,349	1,367	11.1%	5,393	43.7%	5,590	45.3%

推計値

- ・総人口は、2060年において12,349人になると予測され、2020年から2060年までの減少率は39.1%となっています。
- ・2020年から2060年までの減少率を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が29.5%、生産年齢人口（15～64歳）が46.7%、老年人口（65歳以上）が30.3%となることが予測されます。

■参考：人口の将来推計—パターン4（町独自推計：白浜町人口ビジョン）



※2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

	総人口 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
1970年	26,612	—	—	—	—	—	—
1975年	26,617	—	—	—	—	—	—
1980年	26,002	5,818	22.4%	16,859	64.8%	3,324	12.8%
1985年	25,264	5,134	20.3%	16,332	64.6%	3,791	15.0%
1990年	24,737	4,250	17.2%	15,987	64.6%	4,499	18.2%
1995年	24,916	3,788	15.2%	15,731	63.1%	5,397	21.7%
2000年	24,563	3,310	13.5%	14,999	61.1%	6,254	25.5%
2005年	23,642	2,907	12.3%	13,757	58.2%	6,976	29.5%
2010年	22,696	2,566	11.3%	12,428	54.8%	7,424	32.7%
2015年	21,533	2,272	10.6%	11,245	52.2%	7,934	36.8%
2020年	20,262	1,940	9.6%	10,121	50.0%	8,017	39.6%
2025年	19,319	1,682	8.7%	9,740	50.4%	7,896	40.9%
2030年	18,338	1,521	8.3%	8,978	49.0%	7,839	42.7%
2035年	17,321	1,445	8.3%	8,223	47.5%	7,654	44.2%
2040年	16,247	1,340	8.2%	7,362	45.3%	7,546	46.4%
2045年	15,152	1,236	8.2%	6,672	44.0%	7,243	47.8%
2050年	14,104	1,115	7.9%	6,103	43.3%	6,887	48.8%
2055年	13,059	990	7.6%	5,688	43.6%	6,381	48.9%
2060年	12,009	880	7.3%	5,272	43.9%	5,856	48.8%

推計値

- ・総人口は、2060年において10,377人になると予測され、2020年から2060年までの減少率は40.7%となっています。
- ・2020年から2060年までの減少率を3区分別にみると、年少人口（0～14歳）が54.6%、生産年齢人口（15～64歳）が47.9%、老年人口（65歳以上）が27.0%となることが予測されます。



白浜町人口ビジョン

令和7年度改訂版

発行年月:令和8年3月 発行:和歌山県 白浜町
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地

TEL:0739-43-5555(代)

FAX:0739-43-5353

URL:<http://www.town.shirahama.wakayama.jp/>

編集:総務課 企画政策係